

## 第1回庄内町立図書館協議会 会議録

開催日時 令和3年5月19日(水) 午後6時30分 開会  
午後8時45分 閉会

開催場所 庄内町役場B棟2階 会議室2

出席者 出席委員7名  
松田透、小野寺姫、三浦志保、奥山洋子、菅原昭治、志田啓子、佐藤克則

欠席者 なし

事務局 社会教育課 課長 鶴巻勇  
庄内町立図書館 館長 渡曾晃  
庄内町立図書館 主査兼係長 佐藤晃子  
庄内町立図書館 主事 長南千夏

### 議事日程

#### 1 開会(図書館長)

以下進行 事務局

#### 2 辞令交付

#### 3 あいさつ(社会教育課長)

#### 4 自己紹介

#### 5 委員長及び副委員長の選任について

委員長：小野寺姫 副委員長：菅原昭治

##### 小野寺委員長あいさつ

常日頃図書館に思っている意見を述べ、図書館運営に少しでも役に立てればという会である。ざっくばらんに日頃思っていること町民の声として色々な声を届けるという形で楽に臨んでいただきたい。また、念願だった新しい図書館が来年度できるということで、やりがいのある年である。楽しく、この会を進めていきたい。

#### 6 報告事項

- ・令和3年度庄内町立図書館運営計画について
- ・令和3年度庄内町立図書館協議会年間計画について
- ・令和3年度庄内町内藤秀因水彩画記念館運営計画について

- ・令和3年度庄内町立図書館・庄内町内藤秀因水彩画記念館年間事業計画について
  - ・庄内町立図書館整備について
- 〈資料に基づき事務局説明〉

委員長 収蔵品展というネーミングの件に関しては、どうか。

事務局 他館による引用例を紹介。

委員 収蔵品展という言葉が使われていることは理解した。ただ心配なのが、収蔵品展という名前だと魅力を感じにくいのではないかと感じた。特別企画展等に比べて平凡かなと感じた。町民、町外の方が内藤秀因さんに興味を持って、絵を観ていただきたいという観点から言えば、一工夫あっていいかなと感じる。またそれに関連して、水彩画記念館の入館者だが、町内町外の割合はどうか。

事務局 今は具体的なデータを持ち合わせていないが、町外が多い。次回までには、お示しい。

委員 次回で結構ですので、入館者情報をまとめるのであれば、町内町外の割合もまとめた方がよいと思う。

事務局 収蔵品展という呼称の件だが、これだけをいつも示しているわけではなく、付随してそれぞれテーマに添ったサブタイトルを学芸員が工夫を凝らしながらつけている。展示回数をカウントするだけの第〇回収蔵品展といった案内だけではなく、もう一工夫は必ずしている。今後も続けていくつもりである。

委員長 去年度からの大きな目的の一つとして「家読（うちどく）」の取り組みがあったが、具体的にどのような取り組みをしたのか。

事務局 目に見えたキャンペーンのようなものまでは、たどり着けなかった。教育振興計画（後期計画）に盛り込むことや、関係する各機関に「家読」の定義から理解を広めていった。

館長 第三次子ども読書推進計画は5年先を見通して目標設定をしており、今年は2年目となる。小学校では、「家読」の一つの視点として、親子読書を中心とするPTAの組織も立ち上がった学校もあり、徐々に広まってきている。「家読」の定義としては、親子読書イコール「家読」ではない。小学校では親子読書が年に定期的に行われるが、私達が最終的に目指しているのは、日常的な読書の多様性を広めていくことである。そのために、各学校での親子読書の実践事例をどのように共有していくかが求められる。そのためには「家読だより」をどう構成し、配布していくかがこれからの重要なポイントであると思う。また、「家読」を町全体で取り組んでいくとしたら、キャンペーンを実施していく必要がある。

委員 読書に親しむ現状として、校長先生に伺いたいのは、若いお父さんお母さんたちと子どもたちの状況、また、親子読書以外で取り組んでいることについて聞きたい。

委員 5年前のPTAのベルマーク委員会廃止を機に、親子読書委員会が立ち上がった。委員会を通して、家庭での読書を広めるような取り組みをしているところである。さらに、委員会に入った親御さんが立場を変えて、学校での読み聞かせに参加をしてくれるようになり、読み手の広がりも見せている。それ以外には、縦割り班で子ども同士の読み聞かせも行っている。また、本を読むことで得られる具体的な成果も提示したりすれば、読書を始めるきっかけに繋がるのではないかと。そして、庄内町として旗を上げることができれば、各学校でもより広がりを見せるのではないかと。

委員 図書館の選本の仕方はどうなっているのか。職員だけが選んでいるのか。

事務局 職員が選書する割合も大きいですが、地域の利用者の皆さんのリクエストも受け付けている。当館に無い本のリクエストに関しては、新刊については内容を見て購入している。一方、出版時期から年月が経ったものについては、他の図書館から取り寄せる相互貸借システムも取り入れて対応している。

委員 コミック関係についてもリクエスト受け付けているのか。

事務局 基本的には、コミックのリクエスト受け付けはしていない。

委員 開架、閉架、そして現在の図書館に本はどれだけあるのか。そして、重点の中に適切な除籍作業という点もあり、どうなっているかを知りたい。

事務局 今、現図書館には全部で10万冊近い本がある。そのうちの約4万冊が開架、残りの約6万冊近くが閉架にある。新しい図書館では、開架が5万5千冊、閉架が4万5千冊程度となり、新しく本を入れつつ、基準に沿って除籍する予定である。本来開架に置きたい本も現在は、キャパシティの問題で閉架に置かざるを得ないという本もあり、新しい図書館になったら、それらを開架に復活させることも考えている。また、郷土資料についても開架にできるだけ置いていきたいと思っている。

委員 学校図書館の本も日焼けしたものが多く、本の入れ替えはどのような段階で行うべきなのか。

事務局 学校図書館と公共図書館とでは、保存の考え方がまた違う。公共図書館はすべて保存しておくのが理想としてはあるが、市町村立の規模では非常に難しい。そのため、ある程度県立図書館に保存機能はお願いしたりしながら、場所の確保を図っている。

委員長 分館の移動に伴い、規模は変化するのか。

事務局 冊数的には現在と同規模のままスライドする予定と聞いている。

委員 郷土資料等について、貸出し禁止かどうかを決める基準はどうなっているのか。同タイトルでも各図書館でまちまちである。

事務局 基準は一律ではない。例えば、同じ本が2、3冊ある場合は、一冊は禁貸出しにし、もう一冊は利用者へ貸し出し対応とする等して、各館の所蔵状況に応じ、館ごとに異なる。

## 7 協議事項 (座長：委員長)

〈資料に基づき事務局説明〉

### (1) 庄内町立図書館事業評価 令和2年度分について

委員長 新型コロナウイルス防止対策として、今年度も開館閉館については、町のガイドラインに従って判断されるのか。

課長 町の施設の開閉館の判断については、町の新型コロナ対策本部という町長をトップとした組織の中で、常に判断している。最初は一斉に閉鎖、閉館という考え方にに基づき、それに合わせて図書館も一か月ほど閉館した。その後、こうすれば感染を防ぐことができるという情報を基に、できるだけ閉鎖しない方向で今は進めている。各施設でのセルフ消毒の考え方も含めながら、施設を使った際は各部屋、そして共有スペースも必ず職員が消毒作業をするようにしている。このように、引き続き対策を講じながらやっていく。ただ、町内の感染者が増えるという場合については、学校の閉鎖も含め、可能性がゼロではない状況にあることは、受け止めていただければと思う。

委員 文学講座だが、参加者も18名ということから、3年連続同じ方を呼んでやる必要はあるのか。

事務局 3年が一区切りという考え方もある。また、18名という数字は、コロナ禍での開催だったため、20名までの人数制限を設けていた。

委員 内容を見ると「庄内の怪談・そのルーツ」とあり、郷土史研究会にも募集がなかった気がする。民俗学に関連があれば、郷土史研究会と連携をとるのもありではないかと思った。

委員 私は、昨年度こちらに参加した。怪談があまり得意ではないような素人にとってもとて

もわかりやすい、そして幅の広い講演内容だった。新聞の内容とはまた違った側面だった。

委員 社会教育的な発想でより多くの人から図書館に来てもらいたいという観点からすれば、同じ先生を2、3年呼び出すのは機会の提供の公平性から言ってもどうかと思う。

委員 長くても3年くらいのスパンが良いと思う。文学講座であるから、人それぞれ好きな趣味も違うと思うので、社会教育の観点からみても長くても3年だと思った。

委員長 ホームページやLINEを使って図書館の情報を流せば、もっと情報発信できるのではないかな。

館長 課題は、新刊も含め多様な図書の良さをどのようにして町民に伝えるかという情報提供方法だと思っている。「としょかんだより」のホームページへの掲載や町報でも図書館の情報を掲載している紙面があるが、実際利用者の観点で、それらの限られた紙面にどのような情報を載せると、利用の拡大に繋がられるか、情報提供についてアドバイスをいただきたい。

委員 個人的には、タイトルと著者それらを見て、読みたいと思う。

館長 今までの「としょかんだより」や町報には、書影と共に掲載する冊数が、毎月入ってくる新刊冊数に比べると非常に少なかった。そのため書名と作者、出版社という新たな新着図書情報を多く組み入れた今回の「としょかんだより」に改善を行ったが、これについても意見をお聞かせ願いたい。

委員 私は、自分で購入する時は特定の本が欲しいと思い購入を決めるが、図書館は、幅広く色々な本が置いてあるから、自分が気付いていなかった本に出会えるところが魅力だと思っている。よって「としょかんだより」の新着図書の情報が一気に見られるような情報提示だと、自分の興味のあることはアンテナに引っかかってくるのはもちろん、知らない情報との出会いにもなるので有難い。

委員 分館が近いのでそちらに足を運ぶのだが、新刊が少なく、自身のアンテナに引っかかるようなものがない。しかし「としょかんだより」等に多くの情報を載せていただくと、リクエストをして取り寄せることもできるので、文字で情報が見られるのは有難い。立川の新庁舎への移動に伴って、魅力ある分館になることを期待している。

委員 子どもたちだけで放課後図書館を利用したりするのか。そもそも行っては悪いのか。

委員 学区云々はあるが、親御さんの許可を取って、図書館に目的をもって利用するのは、止めるようなものではない。

事務局 かつては子どもだけで相当来ていた年代もあった。しかし、学童保育所の充実によって放課後の利用が大幅に減った。尚且つ今は、コロナ禍で子どもだけで歩かせるのが心配と感じている方が多いのか、平日放課後の子どものみの利用はここ一年で更に減っている。

委員 中学生も減っているか。

事務局 中学生も減っている。

委員 コロナ禍になり中学校では、部活後は早めに帰宅する等の指導が入っているので、平日利用は厳しいのではないか。

委員 立川小学校の図書ボランティアで感じることは、子どもたちは学校図書館から毎日2冊ずつ本を借りていくが、1日に2冊読まなければならないとすれば、町の図書館に行く余裕はないのではないか。また、ただ借りて返すだけになっているようにも思い、残念である。

委員 完読はしなくても、多くの本を手にとることも大事だろうし、面白そうであれば読むであろう。

事務局 子ども読書活動推進委員会でも議論になっている。冊数よりも読書の質の向上を目標に取り組んでいる。本の好きな子の割合の低下も課題になっているので、更に向上させられるよう各学校や町立図書館でも頑張っているところである。

委員 学校において、コーディネーターや図書主任のように毎日会っていれば、その子の読書傾向に合わせたおすすりめができるが、月に1、2回の交代制のボランティアでは、それができないのが残念である。

委員長 現在コロナ禍ということで、15冊まで貸出しできるが、期間は長くないのか。

事務局 小さい図書館のため、15冊を1か月貸出ししてしまうと、開架の本が一気に無くなってしまう可能性や延滞の利用者の増幅ということも考えられ、2週間としている。また、利用者傾向を見ると、絵本や趣味の本を数多く借りられる方がいる。

## (2) その他

8 その他

9 閉会（事務局）